

参考資料

平成20年3月26日開催
第12回三番瀬漁場再生検討委員会資料より抜粋

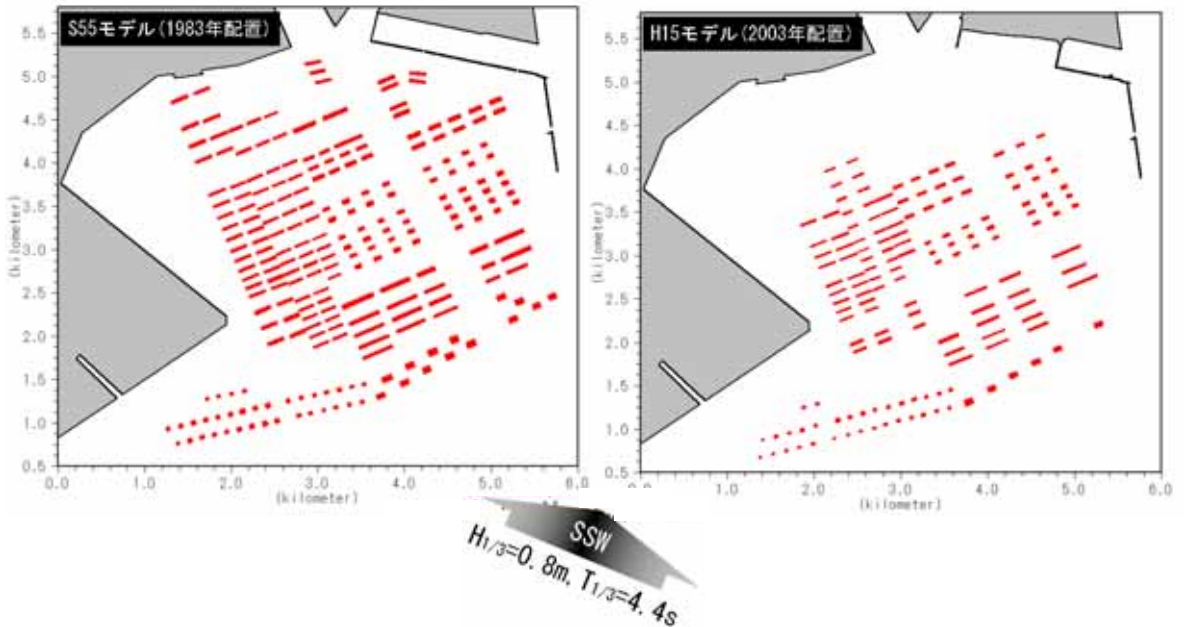
三番瀬漁場特性マップにおける波浪シミュレーション結果

(1) 計算ケースと計算条件

・計算ケース

年度	No.	地形	波浪条件	潮位条件	ノリ養殖施設の影響
昨年度	1	S55	月最大波平均 有義波高 0.8m 周期 4.4sec	東京湾平均海面 T.P.+0.0	考慮しない
	2	H15			
今年度	1	S55		朔望平均満潮位 T.P.+0.939m	考慮しない
	2	H15			
	3	S55			波高減衰率10%
	4	H15			波高減衰率20%
5	S55				
6	H15				

・ノリ養殖施設の設置状況



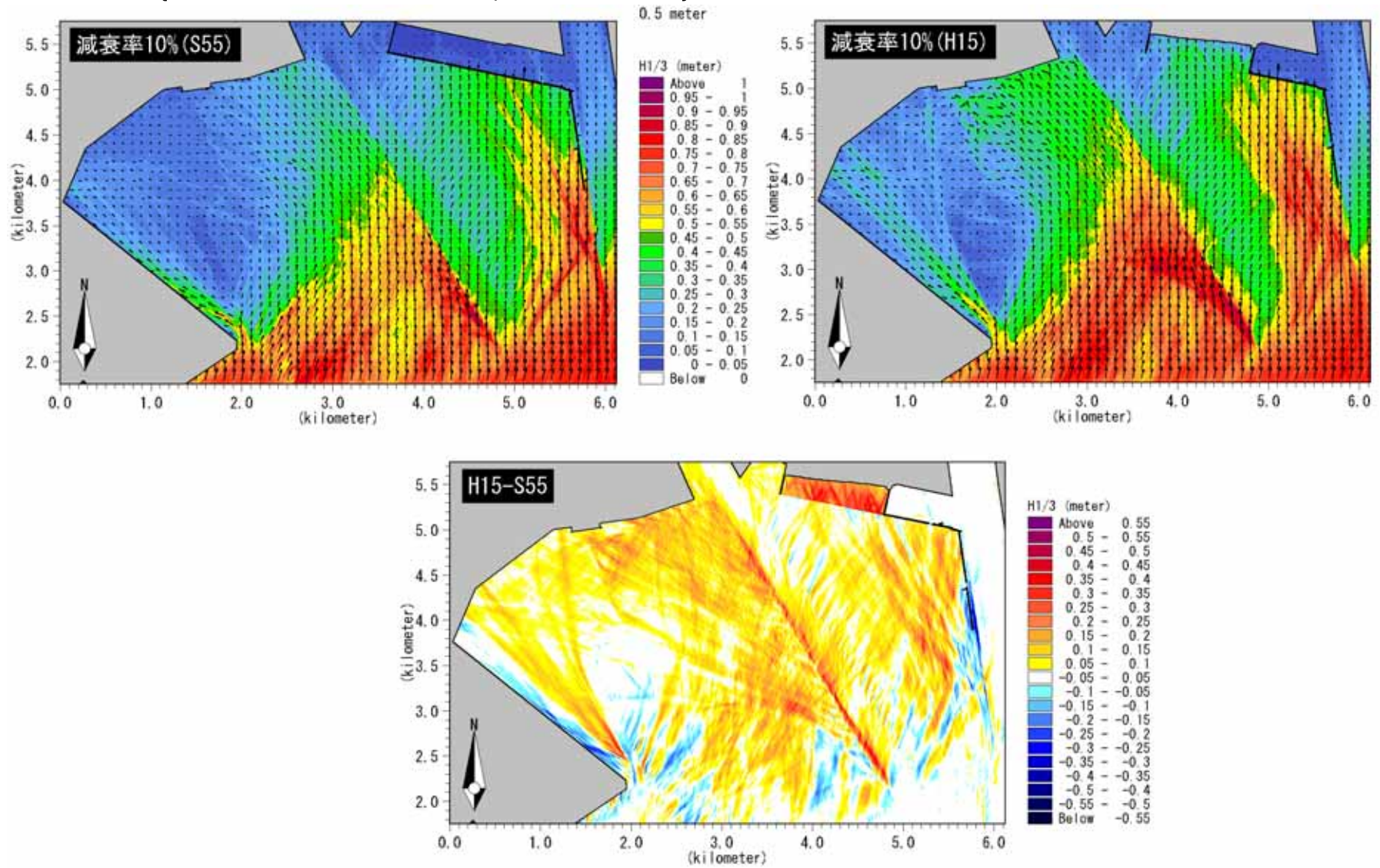
(2) 波高・波向の変化

- ・ 平均的な月最大波浪 ($H_{1/3} = 0.8 \text{ m}$, $T_{1/3} = 4.4 \text{ s}$, SSW) を対象として計算を行った。
- ・ 入射した波は地形が浅くなるとともに波高が小さくなっていく傾向にあるが、日の出の埠頭の背後は、入射する波の影（遮蔽域）になるため波高が特に小さくなっており、市川航路の東側も航路の影響によって波高が小さくなっている。
- ・ 昭和55年と平成15年を計算結果を比較すると、三番瀬全体で波高が増大する傾向となっており、特に市川漁港の沖合や船橋航路と市川航路の西側では10～20cm程度大きくなっている。

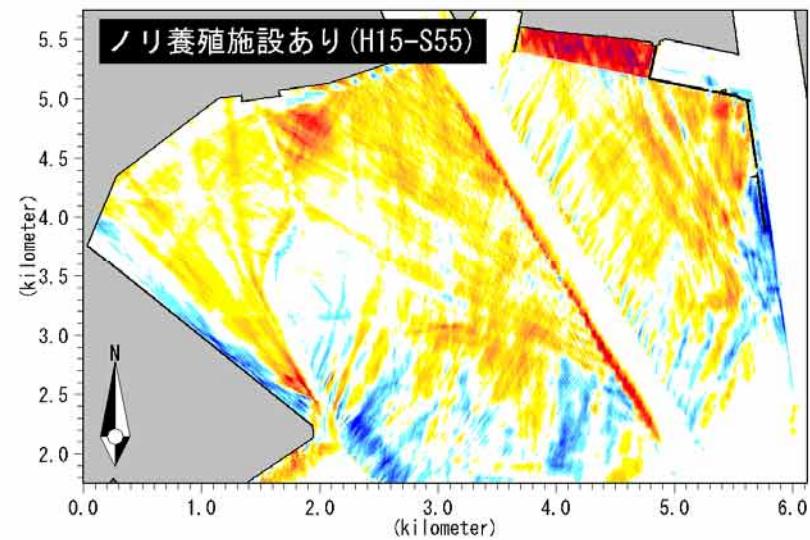
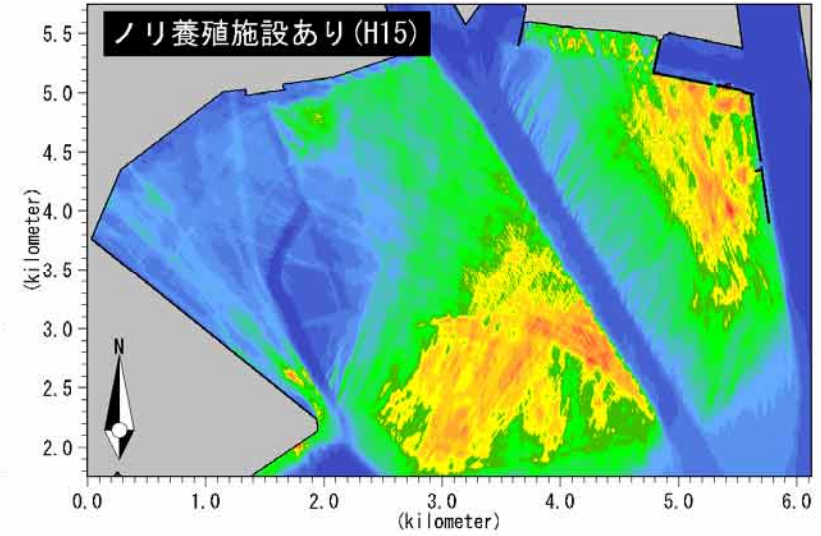
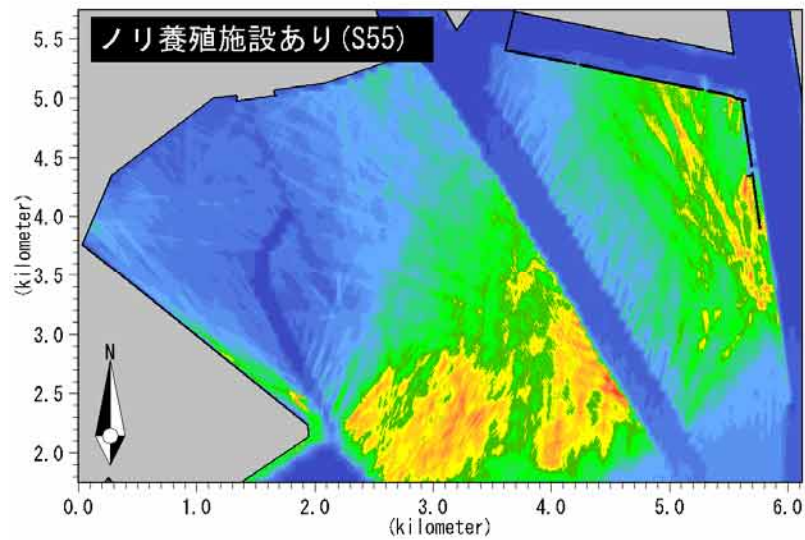
(3) 流速・流向の変化

- ・ 全体的な流況パターンは、昭和55年と平成15年とほぼ同様であり、市川航路の西側では反時計回りの渦（循環流）が形成されており、沖合では市川航路に向う流れと岸向きの流れが強く、日の出埠頭先端周辺では冲向きの流れが強いが、岸近くでは流れが弱くなり、猫実川河口付近ではほとんど流れがない状況となっている。
- ・ 市川航路の東側では、沖合では船橋航路に向う流れが強く、船橋航路および岸に沿う形の流れも強いが、船橋航路内ではほとんど流れがない状況となっている。
- ・ 波浪による流れ（海浜流）は、最大でも20cm/s程度であり、大潮時の潮流の最大流速の半分程度となっている。
- ・ 昭和55年と平成15年の流速の変化は小さいが、一部を除いて全体的に流速は低下しており、市川航路の西側沖合の市川航路に向う流れでは流速が10cm/s前後小さくなっている。

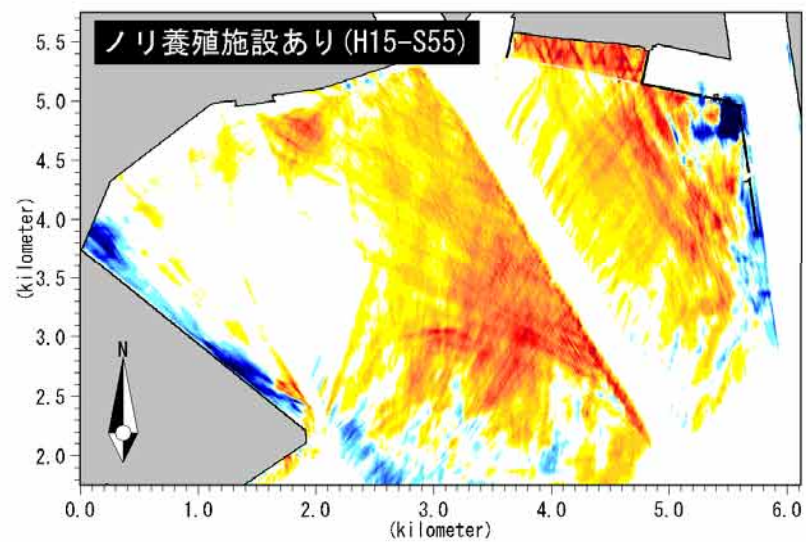
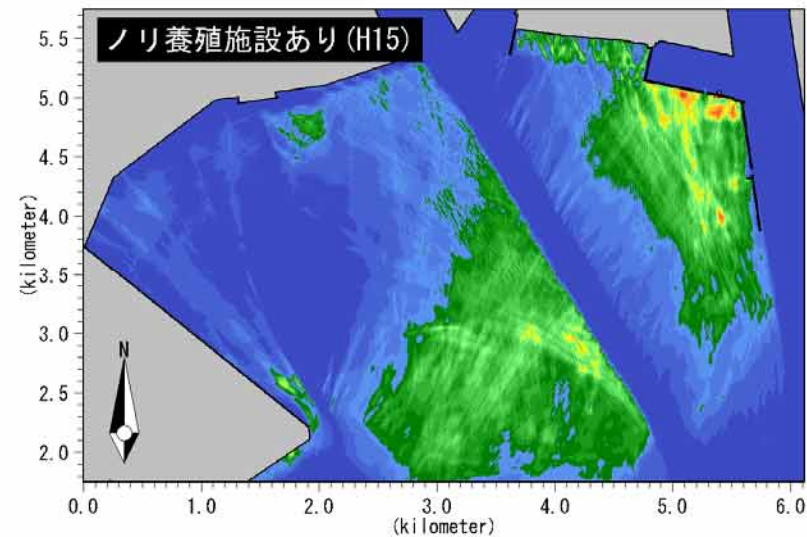
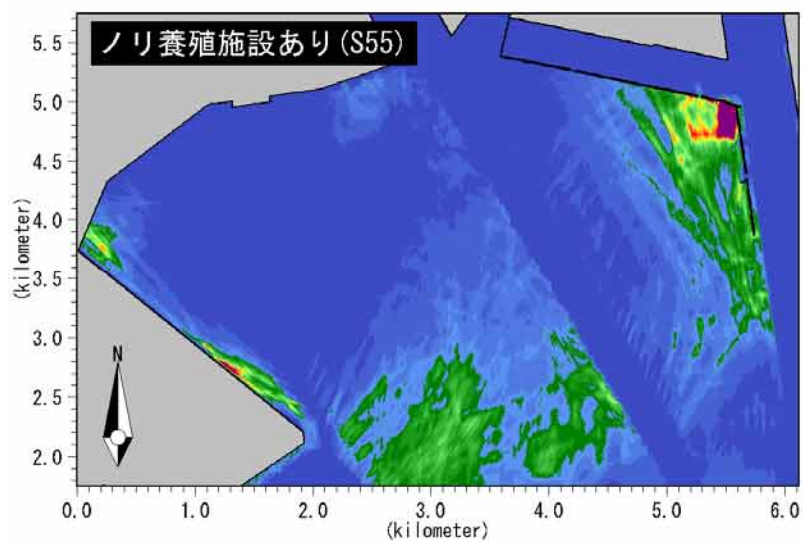
波高・波向の分布（ノリ養殖施設の減衰率 10%，T.P.+0.939m）



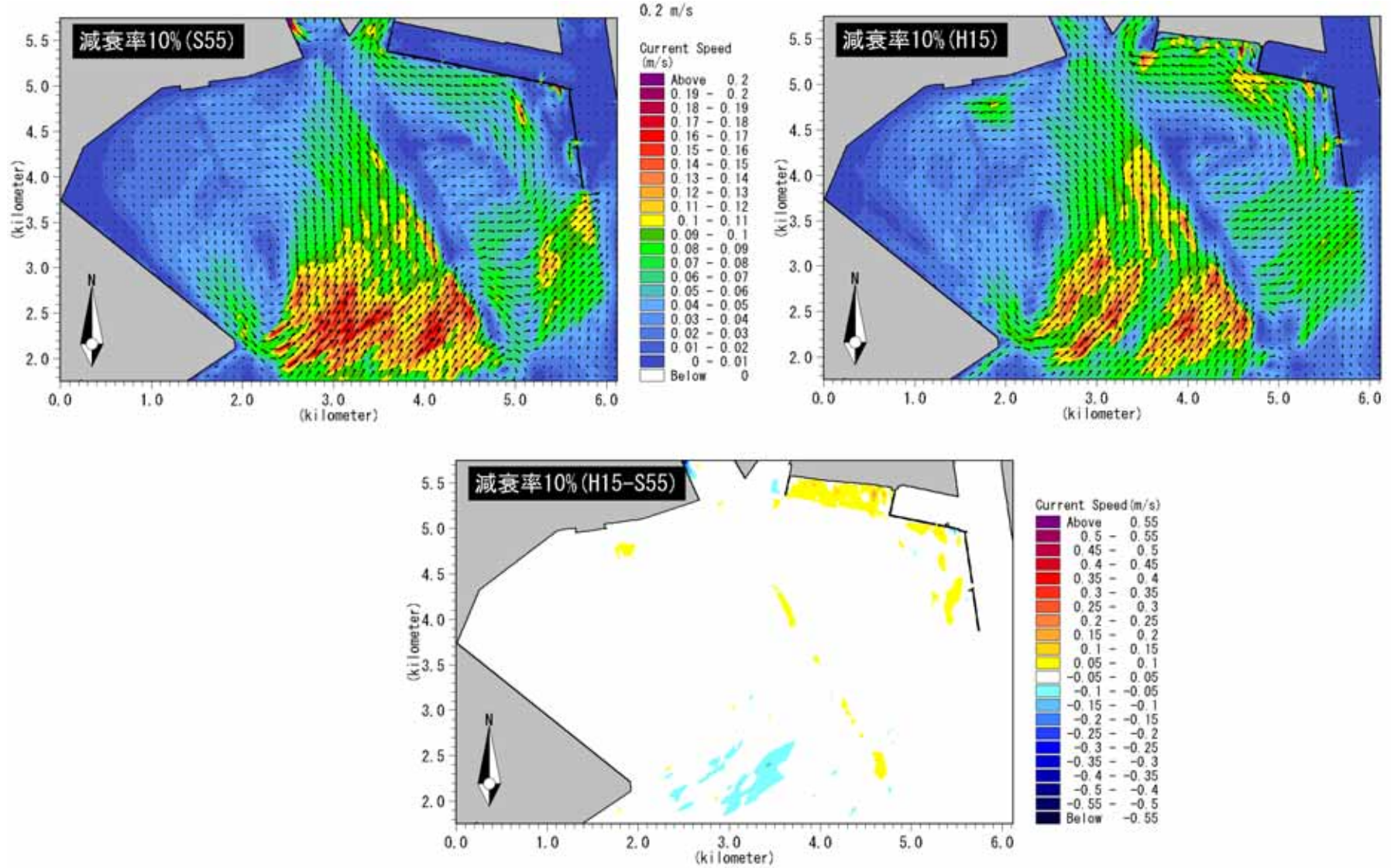
底面波動流速の分布（ノリ養殖施設の減衰率 10%，T.P.+0.939 m）



シールドズ数の分布 (ノリ養殖施設の減衰率 10%, T.P.+0.939m)



流向・流速の分布（ノリ養殖施設の減衰率 10%，T.P.+0.939m）



荒川護岸(東西線付近)

